相浦義郎先生を偲んで

相浦義郎先生は、本学に法学部が創設される昭和五一年四月に、保健体育担当の講師として赴任された。思い起こせば、法学部設立に伴い、保健体育科目の専任教員が必要であるという相談を受け、商学部の勝谷茂先生と適任者探しに奔走した。大阪外国語大学の先輩に問い合わせたところ、当大学に非常勤講師として来ている大阪薬科大学に在職中の相浦先生を紹介してもらった。さっそく大阪まで出向き、先生にお会いして、本学の事情を説明したところ、快く引き受けていただき、本学に専任講師として迎えることになった。

教育面では、健康科学論Ⅰ、教養ゼミナールB（健康科学）、健康スポーツ、運動スポーツを担当され、学生の指導に当たられた。講義は先生の学問に対する厳しい姿勢と情熱を反映し、スポーツ実習では懇切丁寧な指導で、受講した学生に深い感銘を与えるものであった。

研究面では、著書の『現代人の体育・スポーツ・レクリエーション』で第二章の「現代人の体力」を、『みんなのスポーツ』は「体力づくりゲームの進め方」「ボールを用いた体力づくりゲーム」を担当していただいた。さらに、修大論集の「バレーボール選手の体力に関する研究」、「全身反応時間に関する実験的研究＜歴史的概観＞＜強制ペースでの運動負荷がWBRTに及ぼす影響について＞」、『昭和六一・六二・六三年度広島県国体強化選手体力測定報告書』を共同で研究することができ、先生の体育・スポーツに対する豊富な知識に感服せざるをえなかった。

大学運営面では、入試センター長という激務を四年半にわたって歴任され、本学の入試制度の改革に取り組

まれた。その実績は、少子化で子どもの数が激減している現在でも、本学入試には受験生が現状維持であることに明確に現われていると思う。

また、社会活動面でも、広島県教職員組合研究分科会の専門委員や㈶広島県体育協会の指導者養成委員会委員として研修会の講師などを担当され、広島県の体育・スポーツ界に多大な貢献をされた。

このように、先生は教育・研究、大学運営、さらには社会的活動と八面六臂の活躍をされていただけに、五五歳での死去は大変残念で、本学にとってその損失は計り知れないものがある。先生の長年のご苦労に心よりの感謝を述べるとともに、先生の安らかなご冥福を祈るものである。

広島修道大学人文学部教授　佐々木　宏